

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100636		
法人名	有限会社 ファクトリー		
事業所名	グループホーム 朋楽		
所在地	高知市はりまや町3丁目16番8号		
自己評価作成日	平成29年1月13日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりのために、みんなのために、これがわたしたちの合い言葉」という法人理念のもとに、入居者一人ひとりの今までの暮らしや、これまでの生活の歴史を大切に、当たり前な生活を当たり前として過ごせる環境づくりを、地域の方々や家族の皆さんと共に支え合いながら取り組んでいくことを目指しています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=3970100636-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年2月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は病院を改築した建物であり、外壁を親しみの持てるデザインで装飾している。事業所周辺にはホテルや社屋が多く民家が少ないが、事業所2階のホールで実施する「いきいき百歳体操」には近隣住民が参加して、利用者との交流の場になっている。また、近くの神社の夏祭りに合わせて、事業所主催の夏祭りを催し、地域の祭りとして利用者や家族と近隣住民の楽しみにもなっている。 職員は、利用者がこれまでの生活を継続できることを大切に支援を行っている。特に管理者と職員は、利用者が元気であるためには食事が重要と考え、利用者一人ひとりの状態に合わせた、食べやすい食形態にして提供している。また、経験のある職員が新人職員の育成に力を入れ、事業所の大切な人材として育ててきている。事業所は開設後13年になり、地域の一員として根付いている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりのために、みんなのために」という法人の理念のもと、入居者のこれまでの生活歴をふまえたその人らしい当たり前の暮らしの支援を目指し、日々努めている。	「ひとりのために、みんなのために」という法人理念に事業所独自に「個々の生活歴を大切にしたい支援」という理念を加え、事業所内に掲示して理念を共有し、実践につなげている。また、新人研修では理念について話し合い、意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の高齢化や認知症の進行状況に伴い、地域との交流は日常的には難しくなっているが、百歳体操に参加して下さる地域の方も敬老会の催しに参加して下さったり、近所の神社の夏祭りに合わせた事業所の夏祭りで交流を図っている。	事業所のホールで行う「いきいき百歳体操」に近隣住民が参加し、利用者と交流している。また、近所の神社の夏祭りには、法人が地域住民と一緒に屋台を出し、住民が多数参加する地域の夏祭りとして定着し、地域の一員としての交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者からの問い合わせや施設見学の機会に、自施設の説明や空き状況だけではなく、自宅での介護の困りごとや相談等も含めて話を伺う機会としている。すぐに入居できない場合が多いが、相談はいつでも受け入れていることを伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営、入居者の状況、日々の支援内容や活動報告を行いながら、意見や情報をいただき改善、実行できるように努めている。今年度は、2名の高卒採用の職員が就職したが、その際に高校教員をしている委員の方のアドバイスをを受け、採用することができたことがサービス向上になった。	会議では事業所からの報告だけでなく、事業所の実情を説明して活発に意見交換を行い、参加者から適切な助言を受けるなど双方向的な会議となっている。議事録は事業所入口に掲示し、家族には送付していない。	会議の更なる活性化を目指し、議題について幅広い意見や視点を得るため、地域の他の関係職種の方にも参加してもらったり、事業所への家族の理解をより深めるため、家族へ議事録を送付することについても検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて電話や運営推進会議の議事録の送付や、東部地域グループホーム連絡会を通じて必要な知識の確認や相談を行っている。	運営推進会議を通じて事業所の実情や支援内容など伝え、日頃から気軽に相談しあえる関係作りが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員、基礎的な研修では身体拘束について学んではいるが、個々の事例で拘束に該当するのかが分からない場合は、ケア会議で話し合うようにしている。あらためて研修会を開き施設内での身体拘束に対する認識を統一したものとした。	職員は、これまでに身体拘束に関する研修を受け、何が拘束にあたるのか理解ができています。今年度の新規採用職員も研修を受け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、職員は利用者の外出傾向を把握しており、外出時の見守りなど個々の利用者に沿って対応しているが、拘束をしないケア意識に職員間で差が見られる。	今後所内で計画予定の身体拘束に関する研修を是非実施し、身体拘束に対する職員の意識の統一と、理解をより明確にしていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員、基礎的な研修では高齢者虐待防止関連法について学んでおり、日々のケアでも高い意識を持って取り組んでいる。あらためて研修会を開き、施設内での高齢者虐待に対する認識を統一したものとしたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中にはすでに成年後見制度を利用されている方もあり、今後も必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に従った十分な説明は行っている。そのうえで、個々のケースに添ったご家族の不安や疑問等にも、適切に対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては日頃の言動を通して、その方の思いを察し対応している。ご家族の来所時にも、話しやすい雰囲気作りに努めている。	家族会は年1回、夏祭りに合わせて開催している。しかし、家族だけで話し合う場の設定には至っていない。家族の意見・要望は、来所時等にできるだけ聞くようにしている。また、事業所便りも以前は作成していたが、現在は発行しておらず、平成29年春から再開する予定にしている。	家族は事業所に世話になっている思いから、なかなか本音が言えないものであることを理解し、家族だけで話し合う場の設定も含め、些細な事でも意見・要望が言えるような関係づくりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の要望や意見をよく聞き、何でも話せるように心がけている。そうして出てきた要望や意見は、職員会やリーダー会において報告し、法人全体として検討、改善できるように努めている。	職員は月1回の職員会のほか、必要に応じて管理者に意見・要望を伝えている。管理者は法人代表も出席する月1回の所内のリーダー会で、必要な意見・要望を代表に伝え、職場環境の整備や職員が働きやすい条件づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ベテラン職員の高齢化に伴い、常勤から非常勤への移行が多数あり、離職者もあり人手不足が続いていた。今年度はその状況を改善するため、新人の採用も2名確保できた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は高卒採用で2名の新人職員の採用が出来た。外部研修と内部研修を行いながら、職員全員で新人を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム連絡会に参加することで同業者との交流の機会を得ており、その時の情報や知恵を各職員に伝えるようにしている。一般職員が研修などを通じて、同業者との交流が取れるようにしていくことが今後の課題である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を通じて、これまでの生活歴やご本人の思いを把握するように努め、ご本人の不安を少しでも解消して、安心して入居して頂けるような信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとを些細な点でも話していただけるように留意し、入居後もお互いが協力してご本人を支えていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身状態や生活状況、ご家族の思いを把握し、必要としている支援を見極めるように努めている。また、必要に応じて地域包括支援センターや他の介護サービス事業所とも連携し、より適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での家事、調理などを共に行き、時には調理方法や味付けを職員が教えていただく事もある。日常の会話の中でも、昔の暮らしや生活の知恵を教えてもらうなど、共に学び支え合う関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の現状に配慮しながら、出来るだけ来訪して頂く機会の確保や、来訪しやすい環境作りに取り組み、入居者の日々の暮らしや身体状態について正直に報告、相談して、信頼関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や以前の住居の近所の方の来訪時には、歓談しやすい雰囲気作りを心掛け、時には職員も会話に加わり、またの来訪をさりげなく依頼して、関係性の継続に努めている。	家族と一緒に馴染みの美容院に行ったり、外食を楽しむ利用者もいる。また、利用者が活け花を教えていた時の生徒が訪ねてきたり、元の職場の同僚が誕生日に訪ねてくるなど訪問しやすい雰囲気をつくり、利用者との関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性なども配慮し、関係の把握に努めている。孤立する事がないように、快適な共同生活が送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退居された方のご家族もOBとして、運営推進会議の委員として参加して下さる方もいる。退居後も、事業所としてできる範囲で相談や情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の希望や要望の把握に努め、できる限りその思いに沿えるような支援を心掛けている。意思疎通が困難な方についても、ご家族からの情報や、ご本人の言動をよく把握し、思いをくみ取るように努めている。	利用者に思いや意向を直接聞くほか、3カ月に1回アセスメントシートを見直し、入居後に把握した情報などを追記して職員間で共有し、利用者の意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者には、日頃の仕草や表情、家族の情報等から思いを検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的な会話や世間話の中から、その方のでこれまでの暮らしぶりを把握していくことに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中からご本人の現状をとらえ、出来る事を把握し、介助することで奪わないように、出来にくいことを少しずつ手伝う気持ちで介助することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の心身状態、残存能力、機能、今後の可能性、性格、ご家族との関係を考慮しながら課題を抽出し、職員全員で検討し支援内容を決定している。また必要に応じご家族への相談や来所の依頼、支援経過の報告を通しながら、ご家族の意向の把握に努め介護計画を作成している。	本人・家族の意向は、介護計画立案の前に来所時や電話で聞くようにしている。カンファレンス・モニタリングは3カ月ごとに実施し、出席可能な職員全員で検討し、介護計画を作成している。また、利用者の状態変化時は、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過、ケアプラン実施表、各種チェック表の記録、職員間の連絡ノートを通じての日々の情報の伝達と共有に努め、介護計画の見直しの判断材料として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令を遵守しながら、入居者にとっての「我が家同然」の住処として日々を過ごしていただけるように配慮し、その時々状況に合わせた柔軟な対応ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も、ご本人にとってホーム内だけが生活の場とならないように、入居後も要望に合わせてこれまでに培われた一人ひとりの地域資源を活用できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回ずつの内科と心療内科の往診があり、入居者の心身状態、支援経過について報告し、薬の調整や支援における注意点等の意見を頂いている。また、体調不良や急変時は、かかりつけ医への連絡と報告、必要に応じての往診の依頼を行っている。	入居時に利用者・家族に協力医との連携を説明し、利用者・家族の納得のもとで、協力医をかかりつけ医とし往診を受けている。また、専門医など、家族が希望する他の医療機関も受診している。受診は基本的に家族が付き添い、必要時は職員が同行している。受診結果は個人ファイルに保管し、家族と職員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置は前職の退職以降実現しておらず、往診に来て下さるかかりつけ医に連絡をとり、助言や指導を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、ご家族との連絡を密に行い、病状把握や退院後の受け入れに向けての相談を行っている。担当医やソーシャルワーカーとは入院時、退院前カンファレンスを通じ連携を図り、早期退院と退院後の生活に支障をきたさないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をくみ取り、ホームの現状を踏まえ、医師も交えた検討会を行い、ご本人、ご家族の望む支援に可能な限り対応できるように努めている。	看護職の退職以後、職員体制上看取りが困難であり、入居時に事業所で出来る事、出来ない事を利用者・家族に明確に伝え、重度化の状態になれば医師や職員、家族など関係者で話し合い、入院や施設入所等家族・利用者が満足できる終末期の対応を検討している。	事業所での看取りの可能性について、なお、協力医や訪問看護事業所等と話し合い、家族からの希望に沿える体制づくりを協議していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、対処できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームでの職員体制では(特に夜間)充分とは言えないが、出来る限りの体制が取れるように今後の体制作りに向けて努力している。	火災訓練は年2回実施しているが、地震想定訓練は実施できていない。28年度の目標達成計画には、消防署と相談して地震訓練を実施することを目標に掲げ、取り組む予定にしている。非常用食糧等は、現在の数量では不足の可能性があるので、県の地震防災対策マニュアルを参考に準備することになっている。	事業所周辺は民家が少なく、訓練への地域住民の参加が難しい状況であるが、夜間は職員も少なく夜間想定訓練が必要であり、訓練の在り方について運営推進会議でも議題に上げ、検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃から、入居者の心に届く声掛けを心がけ、指示的、威圧的にならないように努め、入居者の尊厳を守る支援を行っている。	職員は利用者の尊厳を守り、誇りやプライバシーを損なわないケアに努めている。利用者の人格を傷つけるような気になる言動があれば、その場で職員同士で注意しあうなど、日頃から利用者を尊重することを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で起こる様々の事で、ご本人が選択や決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの意向や、体調に合わせた個別性を尊重する支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時には服を選んでいただき、日々の生活の中で、ご本人の嗜好を把握することで、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、盛り付け、配膳、食器洗い等、個々のできる力に応じたことを職員とともにしながら、ゆっくりと楽しく食事することを心掛けている。	献立は利用者の好みや旬の食材の利用を心がけ、栄養配分にも注意している。食材の下ごしらえや盛り付け、食器洗い等利用者が出来る事を大切にして支援している。食形態は利用者の状態に合わせて職員と一緒に食事し、適度な音量で音楽を流して食事が楽しくなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は日々チェックし、必要量の確保と状態の把握ができるようにしている。また、ご本人の状況に応じた食形態や食事内容、食器の形状、色彩、配膳の位置等を工夫して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔、義歯の清潔が保たれるように、入居者の能力やその日の状態に応じた支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の必要な入居者については、その方の能力や排泄のリズムを把握し、尊厳を守りながら能力を損なわない支援に努めている。	排泄チェック表で利用者個々の排泄リズムを把握し、各利用者に合わせてトイレ誘導や介助を行っている。夜間も必要に応じてポータブルトイレを利用する等、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、状態などについて、可能な限りの把握に努め、水分や食事内容、運動量を少しでも増やす工夫をすることで、便秘の改善、予防につながる支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望は尊重し、入浴する意欲が起るような声掛けで、気持ちよく入浴できる支援に努めている。	利用者の希望に沿って入浴を支援しており、その日の利用者の気分で入浴を拒否することがあれば、時間や日を変えたり、声掛けを工夫しながら入浴を勧め、拒否が長引く場合は清拭等で清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を確保するために、日中はできるだけ活動的に過ごしていただく事を基本とし、個々の体調や体力に合わせての休息や午睡も、夜間の睡眠に差しさわりのない程度に行い、夕食以降は就寝に向けて穏やかな時間を過ごして頂ける環境作りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援での個々の薬の副作用や用法・用量の把握はもちろんの事、服薬介助が必要な入居者に対しては、薬の形状を薬剤師と相談の上、ゼリーに混ぜて服用して頂くなどの工夫をして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、嗜好に応じた役割分担やレクリエーション活動を、個別に対応できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の高齢化と認知症の進行に伴い、以前の様に頻繁な外出支援は行えていない。ご家族にも協力をお願いし、外出や外食に行ける機会を増やすように努力している。	高齢化に伴い、外出時に車いすを使用する利用者が増えているが、気候が良い時は数人のグループで近くの神社や公園に出かけている。また、ドライブで季節の花見も楽しんでいる。家族が協力して、定期的に外食に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて、ご家族の了解を得て少額を所持管理している方もいる。基本的には、現金はレクリエーション費という名目で、ホームで管理をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等よりの電話は本人に取り次ぎ、ご本人の電話の希望は深夜帯や早朝などを除き、職員が相手先に電話をかけて対応している。手紙についても自力で読み書きできない方は、代読や代筆にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者全員が居心地の良い環境作りを目指し、季節の感じられる飾りつけや季節の花を、華道の心得がある入居者に活けて頂いている。	窓に季節を表す切り絵等を貼ったり、棚の上に季節行事にちなんだ飾り物を置いて、利用者に季節感を与えている。柱にも利用者が彩色した切り絵が飾られ、空間を身近な雰囲気にしてている。テーブルは適度な間隔で配置し、利用者が歓談しながら居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファを配置し、個々が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みのある家具を置き、ベッドが苦手な方は畳を敷いて頂き、写真が趣味だった方は作品を飾って頂くなど、個々に合わせた居室空間を自由に作って頂いている。	居室には畳の部屋やベッドの部屋があり、利用者が使い慣れた筆筒や鏡台などを持ち込み、その人らしく写真や好みの小物等を飾りつけ、個々の利用者が居心地良く暮らせるように居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止を意識し、個々の身体状態に応じた環境整備(手すり、ポータブルトイレなど)を行い、抑制のない自立した生活を送ることが出来るように配慮している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				